

かづの未来会議テーマ別意見集約シート〔第6回会議までの意見を反映〕

戦略・方針	基本戦略1 活力を生む地域産業・生業を支える	項目	産業振興、雇用創出、農林業、商業、工業、女性・若者の活躍促進、幹線道路網整備
-------	------------------------	----	--

【凡例】青字＝委員意見、赤字＝キーワード、黒字＝市分析事項

STEP 1 鹿角市の現状・問題と課題 (ここ10年で鹿角市の良くなったところ●・そうでないところ▲)	STEP 2 目指すべき理想の姿となぜそう思うかの考え方		STEP 3 目指すべき理想の姿を実現するための取組	
	【理想の姿】	【考え方】	【キーワード】	【何をするか】(関係する取組方針)
産業振興 ➢ 自分の子どもに、(鹿角市で暮らす、働く) <u>夢や希望</u>を語っている親はどれだけいるのだろうか。(第1回) ➢ ▲若者の県外流出は、仕事の関係や給料などの差が大きい。(第1回) ➢ ▲電機等の「製造業」よりも、「医療・福祉」で働く人が多く、その人たちの<u>給料の底上げ</u>が必要である。(第3回) ➢ 本市の産業構造に従業者数で捉えと、「医療・福祉」が最も多く、次に「卸売業・小売業」、「製造業」、「建設業」と続いているが、「医療・福祉」だけが増加傾向にある。(資料集P20)	➢ 地域資源を活用し、稼げる産業があるまち ➢ ふるさとに愛着を持った中高生が地域課題に向き合えるまち	➢ 子育て世代(30、40代)が子どもに<u>夢を語る</u>には、きちんと<u>稼げている</u>かが重要だ。(第1回) ➢ 外からモノや人を呼び込むだけではなく、市民が市内のモノを使い、<u>地域の中で経済が循環</u>する取組が必要である。(第4回) ➢ 戦略目標の基準値が低いのが残念であるが、目標を高く掲げなければならないということの裏返しだと思うので、重点的に取り組んでほしい。(第5回)	➢ <u>夢や希望、夢を語る</u> ➢ <u>給料などの差</u> ➢ <u>給料の底上げ</u> ➢ <u>地域の中で経済が循環</u>	➢ 1 地域産業の成長を支援します • 鹿角の地域資源の価値を高め、利益を出せる仕組みを地域全体で考える。(第1回)
➢ ▲市内総生産は、引き続き伸び悩んでおり、秋田県平均を下回る状況に変化なし。(資料集P32) ➢ 付加価値額で捉えと、「医療・福祉」が全体の約3割を占めており、次いで「建設業」、「卸売業・小売業」、「製造業」の順に大きい。(RESAS)	➢ 産業の付加価値が高まり、市民所得の向上や雇用の確保が図られるまち ➢ 企業連携や業種間連携によって地域産業が活性化するまち	➢ 移輸入収支額では、農業が最もプラスとなっていて外貨を稼いでおり、今後も可能性のある産業と考えられる。(逆に、移輸入収支額がプラスの産業が少ないのが本市の弱み。) ➢ 製造業で付加価値を生み出している「電子部品・デバイス・電子回路製造業」、「食料品製造業」の更なる高付加価値化のほか、移輸入収支額プラスへの取組が有効と考えられる。 ➢ 企業や団体が連携しながら技術力、企画力、販売力等のノウハウを共有し、<u>産業全体の稼ぐ力</u>を強化していく必要がある。	➢ <u>産業全体の稼ぐ力</u>	
雇用創出 ➢ ▲有効求人倍率は2倍を超えた時期もあるなど、引き続き1.00倍を大きく上回る高水準が続いている。一方、市民アンケートでは、施策「<u>雇用の安定</u>」の強化を求める声が続き多いことから、雇用環境が好転しているとの実感はない。(処遇改善、賃金格差に対する意見が多い)	➢ 産業の付加価値が高まり、市民所得の向上や雇用の確保が図られるまち(再掲) ➢ 若者たちの働ける環境を世代でサポートできるまち	➢ 産業の育成、市民所得の向上、雇用の創出が連鎖し、<u>市内経済の好循環</u>を生み出す必要がある。 ➢ 若い人が仕事をしているときに、<u>地域の高齢者が子どものケアをするなど、若者の仕事を支えるための新しい発想で鹿角ならではの体制を考えればよいと思う。</u>(第3回)	➢ 「<u>雇用の安定</u>」の強化 ➢ <u>市内経済の好循環</u>	➢ 2 市民等の意欲のある就労・就農を支援します ➢ 3 市内外から産業の担い手を確保します • 特定地域づくり事業協同組合の設立支援や外国人活用支援により、労働力を確保する。
			➢ <u>大家族</u> ➢ <u>若者の仕事を支える</u>	
農林業 ➢ ▲<u>農業の跡継ぎ</u>が不足している。(第1回) ➢ ●H27の農家数は、2,189戸(うち、販売農家数1,607戸)となり、経営耕地面積も減少が続けているが、農家数の減少率に比べ、経営耕地面積の減少率は緩やかである。(資料集P23) ➢ 農業従事者の平均年齢はH27時点で67.5歳と高くなっているほか、農業後継者がいる販売農家の割合は54.8%となっている。(資料集P24) ➢ ●法人化している農業経営体はH27時点で28経営体と増加傾向にあるほか、1経営体当たりの経営耕地面積も2.6haと増加している。畑の耕作放棄地面積は減少している。(資料集P24) ➢ 「<u>スマート農業</u>」を進めるにしても、<u>無人トラクターなどは農地整備された所でなければ作業できないので、先端技術を奨励しつつ、昔からのやり方にこだわって農業を営む人にも目を向けて農業全体を押し上げる方向性が良いのではないか。</u>(第3回) ➢ ▲山は手入れをしなければ荒廃してしまうが、自身で手入れできなければ業者に依頼しなければならず、山を所有することが重荷になっている人が多い。(第3回)	➢ 農林業を次世代へと引き継げるまち	➢ 田んぼや山を家族や<u>跡取り</u>がいなくても、他の若い人に継いでもらいたい。<u>鹿角のいいものを次の代につないでいくことが大切である。</u>(第3回) ➔ 農業自体が稼ぐことができる販売力をきちんと確立していかないと継承にも影響が出るため、販売力のある農林業支援は大きな柱になると考えている。(第3回) ➢ 農業産出額については、「豚」が4割強を占めているほか、「米」「野菜」「果樹」も多く緩やかな増加傾向にある。産出額の維持・増加のためには、①高齢化等による労働力不足を埋める労働力投入(新規就農・法人化)やスマート農業による省力化、②農地集積による生産性の向上、③複合経営の一層の推進が必要である。 ➢ 戦後植林され伐採期を迎えている木材の活用や、森林の更新(再造林など)が必要である。 ➢ 山林の需要と供給をマッチングできる<u>ネットワークづくり</u>が必要である。(第3回)	➢ <u>農業の跡継ぎ</u> ➢ <u>跡取り</u> ➢ <u>次の代につないでいく</u> ➢ <u>昔からのやり方にこだわって農業を営む人</u> ➢ <u>ネットワークづくり</u>	➢ 1 地域産業の成長を支援します ➢ 2 市民等の意欲のある就労・就農を支援します ➢ 3 市内外から産業の担い手を確保します • 特定地域づくり事業協同組合の仕組みを将来的に農業人材確保にも広げていく。 • 「農業サポーターマッチング事業」によるアプリ機能を活用し、繁忙期の人材確保を図っていく。(第6回) • <u>農福連携も考えられないか(第5回)</u> • <u>畜産業は家族経営が多く、果樹や花卉は大規模経営が難しいことから支援が必要である。(第5回)</u>

➤ 人材確保が一番の課題であり、農福連携も解決手段の一つとして考えられる。人材確保については、北海道や四国などで、繁忙期に全国から労働者を募集している事例がある。（第5回）		➤ 隣県の例であるが、鹿角に数力所ある養豚場を合わせた規模の農場が広大な敷地に1か所にまとまっていた。機械化によって効率的な運営がなされており、鹿角市でもこのような姿を目指すことも必要である。（第5回）		
商業 ➤ ▲事業所数、従業者数、年間商品販売額のいずれも減少。（資料集P22） ➤ ▲空き店舗は40店舗と減少を続けているほか、アンケートでは商店街組合員の45%が、今後10年以内の廃業もしくは事業承継の見込みがない状況である。 ➤ 平成23年の秋田県による買い物動向調査によると、地元購買率は61%で、大館市等への流出が見られたほか、商店街では食料品の割合が18.4%であった。 ➤ ▲家族経営の小規模事業者では、繁忙期に対応できなくなり、稼げるときに稼げないところが増えているように感じる。サポート体制の構築が必要ではないか。（第6回）	➤ 快適で魅力ある中心市街地が形成されたまち ➤ コンパクト+ネットワークのまちづくり	➤ 商店街は、商業の振興ばかりでなく「中心市街地」としての都市機能の向上、高齢化社会における利便性の向上など、コンパクトなまちづくりにおいて重要なエリアである。 ➤ 通信販売などの普及により、品物の購入は店頭販売に囚われない形態が続いていくため、空き店舗や空き物件の利活用については、来店によって受けられる体験やサービスの提供が重要である。	➤ 中心市街地 ➤ コンパクトなまちづくり	➤ 1 地域産業の成長を支援します ➤ 3 市内外から産業の担い手を確保します 「特定地域づくり事業組合設立支援事業」を具体化しながら、人手不足に対応していく。（第6回） ➤ 32 コンパクトなまちづくりを推進します
工業 ➤ ●H29の事業所数は65事業所となり減少傾向にあるが、従業者数は1,699人と一定規模が維持されている。また、1事業所当たりの出荷額は33,966万円と上向いており、高度化支援などの成果により市内企業の技術力が高まっていると考えられる。（資料集P21） ➤ 近年は、企業の海外シフトにより、製造業の誘致は難しく、地元企業の連携推進や高度化支援の両輪で取り組んでおり、「電子部品などの製造業」「食料品製造業」で付加価値を生み出している。	➤ 強い基幹産業が地域経済をけん引するまち	➤ 地元企業の振興が本市経済の発展や雇用の確保に極めて重要であり、技術の高度化や企業間連携を引き続き支援する必要がある。 ➤ エネルギー産業との親和性を深め、地域発の製品化を実現させることで、移輸入入収支額プラス産業への成長を目指す。	➤ 市内企業の技術力 ➤ 地元企業の連携 ➤ エネルギー産業との親和性	➤ 1 地域産業の成長を支援します 製造業のメイドイン鹿角製品を全国に普及させ、他産業への応用技術を開発する。 ➤ 26 次世代産業の創出に取り組めます
女性・若者の活躍促進 ➤ ●給料面では首都圏等とは差があるが、鹿角市は自分でクリエイティブなものを生み出すことができる可能性を持った地域である。（第1回） ➤ ▲まちづくり中高生アンケートによると、「卒業後は市外に出る」と考えている層で「地元に仕事がない」という声が多い。就きたい職業があっても、地元で実現している人が身近におらず、現実的に自分の将来に結び付けて考えられない若者が多いのではないか。（第1回） ➤ ●ハローワーク鹿角（秋田労働局）との雇用対策協定や、商工会・地域振興局・小坂町など連携した高校生への市内就職の勧奨が管内就職率上昇の成果となって表れている。 ➤ ▲H27 国勢調査をもとに5歳階級別の女性の純移動数を見ると、10～14歳→15～19歳及び15～19歳→20～24歳の転出が前回調査より拡大し、20～24歳→25～29歳の転入が減少した。 ➤ ▲元気な高齢者も多いが、若い人の活躍の場も作ってほしい。（第6回） ➤ ▲市民アンケートでは、男女の地位が平等と感じる割合は4人に1人。男性が平等と感じる割合が高まっている一方、女性は低下傾向にある ➤ ●ICTを活用したテレワークの普及による柔軟な働き方の推進により、女性のフリーランスや起業家が生まれている。	➤ 若者の起業・創業により、好循環な雇用創出が生まれるまち ➤ ふるさとに愛着を持った中高生が地域課題に向き合えるまち（再掲）	➤ 無いものを自ら作り出す力や起業するスキルなどを、学生から大人まで幅広い年代が学ぶことができる環境が必要である。（第2回） ➤ ふるさとへの愛着と仕事を通じて地域課題を解決していくことの連動が必要である。高校2年生を対象とした地元企業説明会は有効な手段である。 ➤ まちの課題を自分事として考え、意見を提案した「かづの未来の若者会議」の意識をまちづくりに生かしていく必要がある。特に、女性は語学やコミュニケーション能力を生かした国際的な職業に対する関心が高い傾向が見られたため、世界水準を目指す地域DMOやインバウンド対応など、外国人観光客をターゲットに地元でも語学力を生かした仕事に就けることをPRしていく必要がある。 ➤ ワーク・ライフ・バランスの実現や女性も男性もともに活躍できる環境整備が必要であり、世界の課題を集約したSDGsのゴールにも符合する。 ➔ SDGsの17のゴールをそのまま市町村レベルの目標に置き換えるのは難しいので、「ジェンダーの平等の実現」の市町村レベルの課題として女性の活躍促進を置き、その実現がゴールにつながるという整理をした。（第3回）	➤ クリエイティブなものを生み出す ➤ 地元で実現している人 ➤ 無いものを自ら作り出す力 ➤ 起業するスキル	➤ 2 市民等の意欲のある就労・就農を支援します 都会で経験を積み、学んだスキルを生かせる30代中盤くらいのUターン者を増やし、その年代が起業して、そこで働く地元20代の居場所をつくっていく。（第1回） ➤ 26 次世代産業の創出に取り組めます
交通インフラ整備 ➤ 東北自動車道の2つのインターチェンジに接続する主要幹線道路が生活の利便性と生産性の向上をもたらす高速ネットワークを形成している。 ➤ 市内の各拠点を結ぶ幹線道路では、冬や朝夕の通勤時間帯に渋滞が発生している。 ➤ 産婦人科の分娩機能集約のように、様々な機関が集約されることが予想される。近隣市への交通インフラの整備が必須ではないか。（第2回）	➤ 交通環境を生かし、産業を集積できるまち ➤ コンパクト+ネットワークのまちづくり	➤ 広域的な北東北の交通拠点としての利便性を生かし、産業団地へ新たな産業の立地を進める必要がある。 ➤ 人口減少社会の中で、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、全世代が安心して快適に暮らせるよう、交通インフラの長寿命化を図りながら、地域公共交通と連携したコンパクトなまちづくりを進める必要がある。	➤ 新たな産業の立地 ➤ コンパクトなまちづくり	➤ 1 地域産業の成長を支援します - 物流を支える幹線道路の整備により経済活動の効率性を高める。 - 道路や橋の長寿命化対策を行う。 ➤ 32 コンパクトなまちづくりを進めます - コンパクトなまちづくりを行いながら、バスやタクシー等を活用した公共交通ネットワーク網を形成する。

かづの未来会議テーマ別意見集約シート〔第 6 回会議までの意見を反映〕

戦略・方針	基本戦略 2 元気で健やかな暮らしを支える	項目	結婚・子育て、地域医療・保健、高齢者の暮らし、障がい者福祉、多文化共生社会
-------	-----------------------	----	---------------------------------------

【凡例】青字＝委員意見、赤字＝キーワード、黒字＝市分析事項

STEP 1 鹿角市の現状・問題と課題 (ここ 10 年で鹿角市の良くなったところ●・そうでないところ▲)	STEP 2 目指すべき理想の姿となぜそう思うかの考え方		STEP 3 目指すべき理想の姿を実現するための取組	
	【理想の姿】	【考え方】	【キーワード】	【何をするか】(関係する取組方針)
子育て ➤ ▲合計特殊出生率は県内トップレベルにあるが、15～39 歳女性人口が減少しているため、出生数の減少にも影響している。(資料集 P 56・57) 合計特殊出生率が 1.58→1.43 (R2.7 発表) となった。県内では北秋田市に次ぐ 2 番目の順位。出生数が H27 で 164 人まで減少しており、25～29 歳の女性人口の大幅な減少が要因の一つと考えている。 ➤ 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査 (H31.3) では、理想とする子どもの人数は 2 人が最も多く 47.1%で、次いで 3 人が 41.2%であった。また、現実と相違する場合の要因についての考えでは、経済的負担が大きいとの回答が 88.2%と最も多かった。 ➤ ●認定こども園などのハード整備も進み、待機児童は発生していないほか、放課後児童クラブでの高学年受入についても順次開始している。また、平成 30 年度から子育て世代包括支援体制により、妊娠から出産、子育ての総合的な支援を実施している。 ➤ ▲未婚率の上昇が新しい課題 (H27：38.7%) となっており、特に男性の未婚率が高くなっている (H27：47.2%)。	➤ 子育て世代に選ばれるまち	➤ 子どもが少なくなっていくと寂しさを感じる。子どもを地元で生める環境をもう一度整え、良い方向に向かえばよい。(第 1 回) ➤ 2 人以上の多子を希望するニーズが多く、本市の特長である合計特殊出生率の高さにも重なる結果である。手厚い支援策を展開してきたが、 親世代の希望をかなえ 、出生数の向上に結び付く更なる対応が求められる。	➤ 子どもを地元で生める環境 ➤ 親世代の希望を叶える	➤ 6 結婚の希望が叶うよう応援します - 未婚者が増えているので、出会いの場を作ることも必要だが、そのような機会を提供しても人が集まらない課題がある。企業同士の交流会などでさりげない出会いが生まれればよいと思う。(第 5 回) ➤ 7 地域ぐるみの子育て支援を充実します - 子育てには最高の場所であるというイメージを発信する。(第 2 回) - 第 1 子出産に対する経済的支援を厚くする。(第 5 回) - 市民アンケートで満足度が高かった子育て支援をより充実させる。(第 5 回) - 第 1 子を生むと第 2 子以降の出産に対するハードルは下がる。経済的ハードルがあるのであれば、第 1 子出産に対する手当を厚くすればよいと考える。(第 5 回) - 市内に親や親戚がいない夫婦 2 人暮らしだと、収入が少なく、生活維持が困難なケースもある。第 1 子出産の支援をすれば、結婚や出産につながっていくと思う。(第 5 回) ➔ 第 1 子支援としてファーストベビー祝い金を実施したが、効果が数字に表れなかった。しかし、第 1 子出産の重要性は認識しており、検討すべき課題である。(第 5 回) - 合計特殊出生率が高いので、第 2 子以降の祝い金の復活を検討してはどうか。(第 5 回)

地域医療・保健 ➤ ▲産婦人科がないので若い人が定着しない、子どもが生まれない、県外の学校に行って戻ってこないという悪循環になっている。(第1回) ➤ ▲かづの厚生病院では、17 診療科中 7 診療科（呼吸器内科、神経内科、皮膚科、産婦人科、耳鼻科、眼科、精神科、麻酔科）で常勤医が不在で、医師不足は深刻である。 ➤ ●▲かづの厚生病院の医師については H29 に循環器科 2 人、H30 には泌尿器科 1 人、精神科 2 人の常勤医が確保されたが、同年 10 月から分娩機能が大館市に集約された。 ➤ H30 から地域医療推進員を配置し、医師との面会によるネットワークづくりや医師就学資金貸与医学生とのコンタクトを強化している。 ➤ ▲鹿角市は開業医も少なく、かかりつけ医を見つけるのも大変であり、10 年度を見据えた医療体制の整備が必要である。(第5回) ➤ ▲昨年行われた医療の道を目指す人たちのシンポジウムのアンケート結果では、市の医師修学資金貸与制度の認知度がとても低かった。(第6回) ➤ 将来的には在宅医療がさらに必要になる可能性がある。地域医療についても、中核病院に専門員を配置するだけでなく、総合診療ができる意思を確保することが有効である。(第6回)	➤ 安全安心な医療体制が確保されたまち ➤ 医師を目指す若者が増えるまち	➤ 産婦人科の医師確保の活動をしているが、それは短期的な解決策にしかならないので、鹿角市では医師を目指す人への奨学金制度もあるので、中学生くらいのうちから、教育現場で情報を発信して必要がある。(第3回) ➤ 医師の確保は引き続き重要な課題である。 ➤ 感染症、疾病に対する情報提供の方法や、医療体制をどのように整えるかという内容が入っている方がよい。(第3回) ➔ きちんとした医療を受けられる体制があることで安心安全が守られる。市内に診療科がないものでも、市外の医療機関とカルテの情報共有やスムーズな治療が受けられる体制整備が必要だと考えている。(第3回)	➤ 教育現場で情報発信	➤ 4 心身の健康づくりに取り組みます ・新型コロナウイルス感染症の影響で、今特に心のケアが大切である。気持ちの部分で前に進めない人もいられると思われるため、心のバランスを保てる手助けが必要である。(第5回) ➤ 5 適切な医療を受けられる体制を整えます ・医療ニーズは、家庭での看取りも含まれるので、病院だけでなく、在宅医療までの一連の支援も必要である。成果指標も看護師や薬剤師以外に作業療法士や言語療法士等の医療スタッフも追加した方がよい。(第5回) ・医師修学資金貸与制度の情報の出し方を工夫し、周知を図る。(第6回) ➤ 9 誰もが尊重され、社会参加できる地域をつくります ・「地域で支え合う体制・活動の充実」で引き込み対策などに取り組む。 ➤ 19 子どもから青少年までの生きる力を育みます ・小さい頃からたくましく生きるための教育を大切にする。
高齢者の暮らし ➤ ●高齢者にとっては良いまちだと感じる。(第1回) ➤ 介護施設は増えているが介護を受ける側がどのようなサービスを希望しているかが大切ではないか。(第2回) ➤ 高齢者のみの世帯が増加するにつれてサービスの多様化や介護費用の増大が見込まれる。 ➤ ▲介護施設の整備により特別養護老人ホームの入所定員は6施設で 333 人まで増加したが、希望者全員への入所には対応できていない。 ➤ ●介護支援ボランティアや生活支援ボランティア制度により、元気な高齢者が支える側として活動できる体制が構築されている。 ➤ シルバーリハビリ体操などのボランティア活動に公務員 OB からも積極的に参加してもらうことが必要である。(第5回)	➤ 住み慣れた地域で安心して生活できるまち ➤ 高齢者が個性や能力を発揮し生涯活躍できるまち	➤ 高齢者数を維持し、健康で長生きしてもらうために高齢者対策に予算をかけることが必要である。(第1回) ➤ 介護施設に限らず、在宅介護の希望にも寄り添えるコーディネーターが必要である。(第2回) ➤ 介護需要の増大に備え、医療・介護・介護予防・生活支援・住まいが一体的に提供される地域包括ケアシステムの早期構築が求められている。	➤ 元気な高齢者 ➤ 在宅介護の希望	➤ 4 心身の健康づくりに取り組みます ➤ 8 高齢者のいきいきとした暮らしを支援します ・シルバーリハビリ体操等を通じて元気な高齢者を増やす。(第1回)
障がい者福祉 ➤ ●障がい者就労に関しては、雇用主の理解や就労者のマッチングなど、継続的な支援により、雇用率（H30 2.0％）は上昇している。	➤ 障がい者が地域で自立した生活を送ることができるまち	➤ 就労を通じて社会参画を促進し、地域で自立した生活を送ることが重要である。また、SDGs の理念とも符合する。	➤ 社会参画を促進 ➤ SDGs	➤ 9 誰もが尊重され、社会参加できる地域をつくります

かづの未来会議テーマ別意見集約シート〔第6回会議までの意見を反映〕

戦略・方針	基本戦略3 快適で安らぎのある暮らしを守る	項目	住みごこち、都市基盤、生活交通、環境、住宅
-------	-----------------------	----	-----------------------

【凡例】青字＝委員意見、赤字＝キーワード、黒字＝市分析事項

STEP 1 鹿角市の現状・問題と課題 (ここ10年で鹿角市の良くなったところ●・そうでないところ▲)	STEP 2 目指すべき理想の姿となぜそう思うかの考え方		STEP 3 目指すべき理想の姿を実現するための取組	
	【理想の姿】	【考え方】	【キーワード】	【何をするか】(関係する取組方針)
住みごこち ➤ ▲市民アンケートによると、住みごこちについて30代の子育て世代の数字があまり良くない。どれだけ大人が子どもに対して、鹿角市を印象良く見せられるかが大切である。(第1回) ➤ ●移住者や観光客から鹿角の自然がすばらしいと聞く。全国で災害が多発している中、<u>鹿角市は災害が少ない</u>。これが住みごこちの良さにつながっているのではないか。(第1回) ➤ ●自分の家の前で気兼ねなくバーベキューができるのがとても魅力的という評価もある。(第5回)			➤ <u>自然がすばらしい</u> ➤ <u>鹿角市は災害が少ない</u>	➤ 14 緑と水の映えるまちの環境を守ります ➤ 15 災害への対応力のある地域をつくります
都市基盤 ➤ H30時点で市道の舗装率は58.7%、水洗化率は69.5%となっているが、道路については量的整備から、通学路などの交通の安全を確保する質的整備が課題となっている。	➤ 快適な都市空間が整備されたまち	➤ 道路等のインフラを含め、公共施設等の老朽化が進んでおり、統廃合・長寿命化の推進による維持管理の最適化が求められるほか、未利用公共施設の利活用が課題となっている。		➤ 10 衛生的で良好な生活環境を確保します ➤ 17 災害に強いまちの基盤整備を進めます 安全で安心して暮らせるよう、道路や橋りょう等の適切な点検を実施し、市民にも分かりやすく示してもらいたい。(第4回)
生活交通 ➤ 地域公共交通活性化協議会のもと、路線維持のための事業者への支援のほか、新たにデマンドバスの手法を導入するなどして、生活交通の維持・確保に努めている。	➤ 快適で安心安全な交通ネットワークが整備されたまち	➤ <u>公共交通の部分は、高齢化社会では必要なことだと思うが、具体的に進めてほしい。(第4回)</u> ➤ 高齢化は進むが、過度にマイカー依存することなく暮らせる環境づくりが必要であり、地域の実情に合った交通手段の導入について、事業者と一体となった取組が重要である。		➤ 12 地域に合った公共交通手段を確保します
環境 ➤ ▲自然など、豊かな環境が身近すぎるため、鹿角の良さに気づいていない市民が多い。(第2回) ➤ ●快適環境まちづくり市民会議で実施しているクリーンナップ活動や、リサイクル活動の実践により、環境保全の意識醸成は図られている。 ➤ ▲ごみの分別が大雑把な人もいるため、資源リサイクルを適正処理とは分けて徹底してほしい。(第3回) ➤ 他自治体では、外資が水源を目的に山を所有している例もあるので、鹿角の<u>水を守る</u>ことを打ち出すことが必要だと思う。(第3回) ➤ ●<u>永続地帯</u>という言葉は鹿角の特長を表す。エネルギーと食料自給率が100%以上の自治体を指すが、県内ではにかほ市と鹿角市だけである。(第3回) ➤ ▲戦後に植えられた木が伐期を迎えているが、その後に植林をしていない所が多い。懸念されるのは、自然が崩壊してきれいな水が守れないことである。市で山を守ることも必要ではないだろうか。(第3回)	➤ 鹿角の自然の豊かさを守り、未来へつないでいくまち	➤ 豊かな自然環境を守り、次世代に引き継いでいくためには、クリーンエネルギーの利用など、環境への負荷が少ない持続可能な社会を構築することが重要である。また、<u>SDGs</u>とも符合する。 ➤ 熊の被害が気になる。農作物の被害だけでなく、民家に近いところまでも広がっているので、今までとは違う危険も考えられるようになっている。(第4回)	➤ <u>水を守る</u> ➤ <u>永続地帯</u> ➤ <u>SDGs</u>	➤ 10 衛生的で良好な生活環境を確保します ➤ 13 ごみの適正処理と資源リサイクルを進めます - アルミ缶を10本集めると5円もらえる取組を行っている地域(市外)があり、資源の回収にもなるので自治会でも真似をした。リサイクル業者に買い取ってもらったお金を自治会のボランティアと高齢者の交流会時の茶菓子代に充てているが、工夫次第でリサイクルが進むと思う。(第3回) ➤ 14 緑と水の映えるまちの環境を守ります - クマの被害は、刈り払いがきちんとされていれば防ぐことにつながると思うので、新規に何かを打ち出すの

				ではなく、維持管理を徹底することが大切だと思う。(第3回)
住宅 ➤ 漫然と現状維持の意向を持っている空き家の所有者が多く、解体や利活用に向けた働きかけが課題である。(資料集 P63)	➤ 住宅が適正に管理され、利活用が促されるまち	➤ 人口減少等に伴い空き家問題が深刻化し、防災・防犯・衛生面での問題も発生しているなか、住まいの耐震化、リフォーム、既存住宅の流通など、総合的な住宅ストック活用型市場への転換が求められている。	➤	➤ 11 安全・安心な住まいづくりを進めます

かつの未来会議テーマ別意見集約シート〔第 6 回会議までの意見を反映〕

戦略・方針	基本戦略 4　暮らしの安全・安心を高める	項目	防災、交通事故・防犯、消費生活、消防・救急
-------	----------------------	----	-----------------------

【凡例】青字＝委員意見、赤字＝キーワード、黒字＝市分析事項

STEP 1 鹿角市の現状・問題と課題 （ここ 10 年で鹿角市の良くなったところ●・そうでないところ▲）	STEP 2 目指すべき理想の姿となぜそう思うかの考え方		STEP 3 目指すべき理想の姿を実現するための取組	
	【理想の姿】	【考え方】	【キーワード】	【何をするか】（関係する取組方針）
防災 ●平成 23 年の東日本大震災や、近年の異常気象と考えられる豪雨災害を経験し、市民の防災に対する意識が非常に高まっている。 ●自主防災組織の組織化が進み、地域の防災力が向上している。（資料集 P 70）	災害への備えと防災の意識の高いまち	- 戦略目標は、命にかかわる部分なので、100%を目指すくらいもっと高い目標に設定してはどうか。（第 5 回） - 地震や豪雨などの自然災害の発生を止めることは不可能なため、その被害をいかに軽減するかが命題であり、①ハード面として、災害に強いライフライン、公共施設の耐震化、治水対策を進めるとともに、②自主防災力の更なる向上や、個人による日ごろからの備えが不可欠である。		15 災害への対応力のある地域をつくります 17 災害に強いまちの基盤整備を進めます
交通事故・防犯 ●交通事故件数及びそれに伴う負傷者数は、H 25 に一時的に増加したが、以降減少傾向にある。（資料集 P 67） ●交通事故に伴う死者数は、H 24 から H 28 にかけて増加したが、H 29 以降は減少している。（資料集 P 67）	誰もが安全で安心して暮らせるまち（交通事故の減少、犯罪の少ないまち）	交通事故件数（死者数）は減少傾向にあり、引き続き対策の継続が必要である。		18 防犯や交通安全を進めます
消防・救急 - 火災発生件数は H 28 から減少し、近年は横ばいとなっている。火災発生原因で最も多いのは、たき火（火入れ）となっており、ストーブや電気配線を原因とするものも毎年数件発生している。（資料集 P 70） - 救急出動件数は、H 23 以降減少傾向にあったが、H 27 から再び増加に転じ、以後横ばいで推移している。出動原因で最も多いのが急病であり、全体の 7 割を占めているが、一方で不搬送件数も H 27 以降 100 件を超えており、全体の約 10%を占めている。（資料集 P 70） - 消防団は、人命や財産を守る大切な機能であるが、団員は実際には減少しているし、人口も少なくなる中で加入者の確保は大変なのではないか。（第 4 回）	誰もが安全で安心して暮らせるまち（火災が少なく、救急体制が確立されたまち）	火災発生件数は横ばいであり、消防体制の維持が必要である。		16 火災や救急に対する体制の強化を進めます

かづの未来会議テーマ別意見集約シート〔第6回会議までの意見を反映〕

戦略・方針	基本戦略5 未来に羽ばたく人材を育てる	項目	学校教育、社会教育、芸術文化、地域の特色ある教育
-------	---------------------	----	--------------------------

【凡例】青字＝委員意見、赤字＝キーワード、黒字＝市分析事項

STEP 1 鹿角市の現状・問題と課題 (ここ10年で鹿角市の良くなったところ●・そうでないところ▲)	STEP 2 目指すべき理想の姿となぜそう思うかの考え方		STEP 3 目指すべき理想の姿を実現するための取組	
	【理想の姿】	【考え方】	【キーワード】	【何をするか】(関係する取組方針)
学校教育 ➤ ●学力については引き続き、全県平均レベルを維持している。 ➤ ●学習環境については、児童生徒の減少(資料集P77・78)を見込んだ学校等再編計画による統廃合を進め、適切な学校規模による授業や、学校給食が提供されている。 ➤ PTA活動を通じて、様々な機関や地域の方々が子どもたちのために関わってくれていることを知った。そこに気付いていない親御さんも多いと思う。地域のつながりの希薄化が課題にある中で、地域の方々の参加や、高齢者と子どもたちの交流の場などもあるので、親世代も積極的に参加できる仕組みがあればよい。(第3回) ➤ 中高生アンケートの実施結果に、語学と海外の人とのコミュニケーション能力を身に付けたいという回答が多かったが、鹿角に限らず、今、若い人が海外で活躍したいという希望がとても多い。(第3回)	➤ 社会を生き抜く力を持った子どもたちを育むまち	➤ 引き続きキャリア教育を推進するとともに、予測困難な時代にあっても、国際化や技術の進歩に対応しながら、 社会の形成に貢献 できる資質・能力の育成が重要である。 ➤ 今後も児童生徒数の減少は進むため、さらに 次世代の学校再編 が必要である。 ➤ グローバル化やICTの進展などにより、社会は大きく変化しており、 未来に生きる力 の育成が重要である。 ➤ 国際化に対応できる人材育成支援が必要である。(第3回) ➔ 中高生アンケートの結果を参考に、未来にはばたく人材育成を基本戦略5に位置付けている。ICT教育や語学を磨く教育について、本市の特色を出していきたい。(第3回)	➤ 海外で活躍したいという希望 ➤ 社会の形成に貢献 ➤ 次世代の学校再編 ➤ 未来に生きる力 ➤ 国際化に対応できる人材育成	➤ 19 子どもから青少年までの生きる力を育みます ➤ 20 地域の特色ある教育活動を実施します
社会教育 ➤ ●まちづくり中高生アンケートの結果を見ると、地域の伝統文化の継承や活動が活発な地域に住む生徒の数字が良い。地域活動はこれからも大切である。(第1回) ➤ ▲大人と子どもの距離感が遠くなっているように感じる。親子間だけではなく、地域が親戚のようになれば、まち全体で一体感を感じられるのではないか。(第2回) ➤ ▲職場の理解がなければ、学ぶ時間やそれを生かす時間を作ることが困難だと感じる。市民に市の現状を知ってもらうことが大切だ。(第6回)	➤ 生きがいを持ち、誰もが精神的豊かさを感じられるまち ➤ 学んだことを地域に還元できるまち	➤ 市民の自発的な学習・活動の場は充実しているため、地域にある学校を核に、地域と家庭が共に特色ある教育活動を展開していくことで、未来の人財が育てられていくことが重要である。 ➤ 個人のスキル向上を自己完結で終わらせず、周囲に波及させるような取組につなげていくことが重要である。(第6回)		➤ 19 子どもから青少年までの生きる力を育みます ➤ 20 地域の特色ある教育活動を実施します ➤ 21 自ら学び、行動する社会人を支援します
芸術文化 ➤ ●花輪ばやしが「花輪祭の屋台行事」としてユネスコの無形文化遺産に指定されたほか、大湯環状列石を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」も2021年の登録が見込まれている。さらには、「毛馬内の盆踊」についても、全国33保存団体の連合により世界遺産登録を目指している。 ➤ ●歴史民俗資料館が整備され、鹿角の繁栄を支えてきた産業や人々の営みに触れる企画展も開催され、年間約2千人の来館者となっている。	➤ 多様な芸術文化を身近に感じられるまち	➤ 文化財など、末永く後世に伝えるための継承者の育成、維持管理、保存が重要。 ➤ 保存のみならず、その活用も視野に入れた整備が必要であり、類まれな資源と、その資源を生んだ歴史風土や民俗を生かした交流の活性化が求められる。		➤ 21 自ら学び、行動する社会人を支援します ・ 会社員として働いていると学ぶ時間を作ることが難しい。そういう人材がたくさん育成されることを願うが、会社の理解など環境が整わないと難しい。(第4回)
地域の特色ある教育 ➤ 足りないものがあれば生み出すことができることを子どもたちに知ってもらうことが必要である。そのような機会を積極的に提供することが将来の鹿角市にとっての種まきとなる。(第1回) ➤ ▲ふるさと教育に取り組まれているが、昔に比べて、子どもたちが十和田八幡平などの鹿角の自然に触れる機会が減っているように感じる。(第2回) ➤ ●ふるさと学習では各学校の特色ある活動が国の表彰を受けるなど、ふるさとの良さの発見や愛着心の醸成が高められている。また、ふるさと・キャリア教育では、コーディネーターによる地元企業との調整が円滑に行われ、児童生徒の職場体験・職業見学の受入れが拡大している。	➤ 生きる力を生かし、必要なものを創造できるまち	➤ 都会と同じものを田舎に作ることは地域の課題解決にはつながらない。(第1回) ➤ 学校統合をしても教育の質を落とさないことが必要である。知識を教えるだけではなく、鹿角の良さを受け止められるような教育が必要である。(第2回) ➤ 鹿角の特色のある教育によって、鹿角の柱となる人材を育てる必要がある。(第4回)	➤ 鹿角の良さを受け止められるような教育 ➤ 柱となる人材	➤ 19 子どもから青少年までの生きる力を育みます ➤ 20 地域の特色ある教育活動を実施します ・ 学校統合で地域に学校が無くなってしまうとしても、廃校をフリースクールに利用するなど、子どもの数が少ないからこそ、特色のある学びがつくられればよい。(第5回)

かづの未来会議テーマ別意見集約シート
 [第 6 回会議までの意見を反映]

戦略・方針	経営戦略1 まちに人・モノ・外貨を呼び込む	項目	対流促進、販売重視型農業、観光業、スポーツの成長産業化、外貨の獲得、エネルギーの地産地消
-------	--------------------------	----	--

【凡例】
 青字＝委員意見、
 赤字＝キーワード、
 黒字＝市分析事項

STEP 1 鹿角市の現状・問題と課題 (ここ 10 年で鹿角市の良くなったところ●・そうでないところ▲)	STEP 2 目指すべき理想の姿となぜそう思うかの考え方		STEP 3 目指すべき理想の姿を実現するための取組	
	【理想の姿】	【考え方】	【キーワード】	【何をするか】(関係する取組方針)
対流促進 ▲市民アンケートによると、子どもが大学生ぐらいの世代（50 代）が「住みごち」が良くないと感じる割合が多い。子どもの卒業後の進路にも影響してくるのではないか。（第 1 回） - 自分の経験を通じて、<u>地元を離れることで地元の良さが見えてくる</u>と感じる。（第 1 回） ▲一度外に出て戻ってくる人がほとんどいないのは、鹿角の魅力が分からないからではないか。（第 1 回） - 昔は家を継ぐという意識が強い時代だったが、今でも（U ターンのきっかけとなる）<u>親子の関係</u>は（普遍的な価値観として）大切に守っていく必要がある。（第 1 回） - そもそも、なぜ人口が少ないといけないのか。（第 1 回） ●人口減少に対し、危機感を持つ市民が多くなったように感じる。民間主体のワークショップなども増えており、どういうまちにしていきたいかを自分たちで考えようとする市民が増えた。（第 2 回） ▲外部の人から鹿角の人は地元のいいところに気付いていない、情報発信も上手ではないという印象を持たれることが多く、自分たちのブランディングができていないと感じる。（第 3 回） ▲市外から嫁いで来たとき、鹿角にはいろいろな物産があったり、スキーのまちであったり、資源が盛りだくさんであるが、焦点が定まっていないと感じた。住んでみると鹿角の良さが分かるが、何か一つに特化して道筋がはっきりした方が、鹿角が初めての人はスムーズに入り込めるのではないか。（第 3 回）	鹿角に戻りたいと思えるまち	- 一度都会に出てから戻りたいと思うのは、<u>子どものときの経験</u>が大切。大人がこの地域で楽しんでいる姿や活気のあるまちの姿を見て、自分が住んでいる地域の良さを思うことができる。（第 1 回） - 子どもを地元から出ないようにするのではなく、外で様々な経験を積んで戻ってきた方が厚みのある人生になる。（第 1 回） - 子どもが都会に憧れを持つのは成長過程で健全だと思う。ふるさとの良い面を比べられる目を持つことは良いこと。（第 1 回） - 良いところだけではなく、鹿角の悪いところも分かった上で、鹿角はこういうところだと伝えた方がよい。（第 3 回） - 悪いところ（地域に不足していること、困りごとなど）を紹介することで、自分にできることや役に立てることを考えるきっかけになる。（第 3 回） - 暮らしの中で不便なことや困ることに対して、いくら文句を言っても現状がすぐには変わることはない。足りないところや悪いところをそのまま言ってしまうだけでは、外部の人にはマイナスのイメージにしかならないので、こういう<u>ケアがあるから補える</u>という発信も必要である。（第 3 回） - 老若男女、誰しも美しいものや理想的な映像には惹かれると思うが、美しい場所にも不便な点はあり、魅力的に見せられる地域は、「魅せ方」がとても上手だと感じる。鹿角をうまく PR して、外部から人を呼び込めればよい。（第 3 回） - 魅力があるかと聞かれると、自信を持ってあると言えていないので、みんなが鹿角の魅力に気が付いて、「魅力がある」と言えればよい。（第 4 回） - 人口減少が地域経済に及ぼす影響は、需要の減少よりも供給力の低下による影響の方がはるかに大きく深刻である。	<u>地元を離れることで地元の良さが見えてくる</u> <u>親子の関係</u> <u>子どものときの経験</u> <u>(悪い部分に足しては)ケアがあるから補える</u>	20 地域の特色ある教育活動を実施します 22 人や地域の活力を生む交流を促進します - 鹿角の（※悪い部分も分かってくった上で）良い部分を子どもたちが小さい頃から伝えていく。（第 1 回）※第 3 回意見部分 - 大人が鹿角の暮らしを楽しんで子どもを巻き込む、まちの自慢を子どもたちに伝えていく。（第 1 回） - 若者たちが鹿角で可能性を感じられるような教育と戻って仕事に就ける環境を整備する。（第 1 回） - 人口の社会増対策として、移住に取り組む必要があるが、鹿角市の特長を生かして、特に子育て世代にアピールできる環境づくりの強化が必要。 - 武蔵野大学のように、鹿角に目を向けている大学もあるのであれば、もっと連携を進めていけたらよい。（第 4 回）
▲地産地消の循環がなされているが、移住者にとっては誰によって、どのような作物が作られているかが分からない。（第 3 回） ▲移住して畑を持ちたいと思っても、身寄りがいないとどこに聞いたら分からない。（第 3 回） ●NPO 法人かづの classy での仕事を通じて、鹿角は素晴らしい場所だと感じており、鹿角を守るためにどんな協力ができるのかを考えているが、そのように考えている人は他にもいると思う。（第 3 回） ▲移住して 2 年くらい経つが、鹿角の人たちは市役所に頼っている部分が多いと感じる。これから、新たな総合計画の実現を目指していくためには、自分たちのことなので、みんなで力を合わせて一緒にやっていく意識が大切だと思う。（第 6 回）	- 移住者が集うまち - 移住者がチャレンジできるまち	「対流促進」ならば、移住の促進が一つの策ではないか。（第 3 回） - たくさんの<u>農村資源</u>があるので、若者たちによるシェアファームなど、自然環境を守りながら様々なことができる可能性を秘めている。そのため、地元の情報を知りうる場が必要である。山や農地を必要とする移住者と若者に継承したい市民との両方のニーズを満たすことができる。（第 3 回） - 就労形態の変化により、<u>外部人材</u>がこれからの鹿角を盛り上げる可能性が高まっているのではないか。（第 4 回）	農村資源	
販売重視型農業 ●販売のあった農業経営体の<u>複合経営</u>の割合は 25.5％となっており、県平均（15.2％）を大きく上回っている。（H27 農林業センサス）	販売力のある農林業が育成されるまち	本市の農業は製造業や観光関連産業と並んで重要な外貨獲得産業となっており、若者のスキルを生かした農業展開が必要である。	<u>複合経営</u> <u>新ブランドの育成</u>	23 販売重視型農業と 6 次産業化を進めます

➤ ●これまでブランド化を図ってきた北限の桃やかづの牛、淡雪こまちに加え、啓翁桜や新テッポウユリ、シャインマスカットなどの新ブランドの育成がなされている。 ➤ コロナ禍により、自宅で過ごす時間が増えているが、その中で料理や食に関する興味関心の高まりをチャンスにできるのではないか。地元の食材をもっと知ってもらい、地産地消など内側の取組を発信していけば、地域も盛り上がってくのではないか。（第6回）	➤ 若者が農業で稼げるまち	➤ 農業は組み合わせが大事である。収穫時期などを考慮した複合農業や販路拡大などの体制づくりが大切である。（第4回） ➤ 地域の人たちが元気に活動していることを発信できるよう、宣伝力を高めていく必要があると考えている。（第6回）		・ブランド農産物の高付加価値化を図り、収益を増加させるアグリビジネスを確立する。 ・Society5.0 に対応した「スマート農業」の導入・普及を図る。 ・果樹栽培は従事者の高齢化が進み、栽培面積も減少してきていることから成果が心配だが、農業と観光を組み合わせれば面白いと思う。（第5回）
観光業 ➤ ●世界遺産登録が進むなど、本市は類まれな資源に恵まれていることが再認識されている。 ➤ ●外部人材の登用など、「（株）かづの観光物産公社」の組織強化により、日本版地域DMOが確立され経営改善につながったほか、東日本大震災以降低迷していた観光客数・宿泊者数が増加に転じた。（資料P25・26） ➤ ▲今まで八幡平アスピーテラインの開通直前に雪の回廊を歩く鹿角ならではのイベントがあったが、来年度からできなくなると聞いた。危険性を考慮してとのことだが、特色ある観光資源が利用できなくなるのは残念である。（第3回） ➤ ▲十和田湖や八幡平が観光地の重要拠点になると思うが、道の駅はWi-Fi整備が進む一方、実際の観光地は整備されていない。八幡平のドラゴンアイでは、秋田県側でスマホの電波が弱いという話もあり、そのような小さいことが徐々に大きな差を生むのではないだろうか。（第3回）	➤ 国内屈指の地域資源を生かし、世界各国から観光客が訪れるまち ➤ 稼げる観光振興のまち	➤ 効果的な情報発信と着地型観光商品の充実が必要である。 ➤ 道の駅「おおゆ」を観光拠点に加え、十和田八幡平間を結ぶルートによる市内消費の最大化を図っていくために、資源を活用した滞在型コンテンツの開発・展開が重要である。 ➤ ICT活用による戦略的な観光振興、インバウンドの強化が必要である。 ➤ 鹿角には国立公園や祭りなど、様々な観光資源がある。しかし、<u>身近にも知らないもの</u>がたくさんあり、それらを体験できるコンテンツとして発信できたらよい。（第3回） ➔ 観光は攻めの取組として、都市経営の視点で「稼げる観光を推進する」と載せている。観光分野は、行政で取り組まない市町村もあるが、本市は観光地であり、様々な人が携わることで地域が成り立っているので、しっかりと稼げる観光振興を目指したい。そのため、様々な地域資源を活用していくべきと考えている。（第3回）	➤ 類まれな資源 ➤ <u>身近にも知らないもの</u>	➤ 24 稼げる観光振興を進めます
スポーツ ➤ ●▲「スキーと駅伝のまち」を掲げて大会誘致を行うのは評価できるが、協議関係者以外からの認知度が低い。（第2回） ➤ ▲地元の子どもがスキーに親しむ機会も減っている。（第2回） ➤ ●東山スポーツレクリエーションエリア内の競技施設の整備により、スポーツ環境は一層の充実が図られている。 ➤ ●「スキーと駅伝のまちづくり」を進めており、スキーについてはほぼ毎年全国規模の大会が行われている。 ➤ ●チャレンジデーへの参加は、全市的なスポーツに親しむ機会の創出に寄与している。	➤ スポーツを通じて、さまざまな人々が鹿角で交流できるまち	➤ スキーや駅伝の<u>競技関係者以外の認知度</u>を高める必要がある。（第2回） ➤ スキーがもっと身近で活発な取組になればよい。（第2回） ➤ スキーや駅伝競技の盛んな地域特性を生かして、競技人口の底辺拡大のほか、まちづくりへの波及を高める必要がある。 ➤ 競技スポーツの振興のほか、生涯スポーツとして多くの市民がスポーツに親しむ機会を増やす必要がある。	➤ <u>競技関係者以外の認知度</u>	➤ 25 スポーツの力でまちの魅力を高めます ・<u>「スキーと駅伝のまち」とうたっているので、練習設備の増設や普段から練習している姿を市民が見られる環境がもっとあってよい。</u>（第5回）
外貨の獲得 ➤ ●平成23年鹿角市産業連関表によると、農業、製造業（電子部品）、電気・ガス・水道（電力）、サービス（宿泊業）の生産額が域内需要を大幅に上回っている。これらの産業は、地域の需要をまかないながらも、余りある生産物を域外へ売却して外貨（所得）を稼ぎ出している産業となっている。 ➤ 電子部品を除く製造業や一部のサービス、情報通信、商業などでは域内需要の多くを移輸出に依存している。	➤ 地域資源を活用し、稼げる産業があるまち ➤ 企業連携や業種間連携によって地域産業が活性化するまち	➤ 外貨が獲得できる産業を伸ばし、利益の確保が所得の向上と雇用の安定につながる<u>循環型経済を確立</u>していく必要がある。	➤ <u>循環型経済を確立</u>	➤ 26 次世代産業の創出に取り組みます ・<u>起業の設備投資に対する助成や企業誘致について、効果が出ているのであれば続けてほしい。</u>（第5回）
エネルギーの地産地消 ➤ ●電源資源が豊富な地域の特長を生かし、電力資金の域内循環を目指す地域電力小売会社「かづのパワー」を設立し、エネルギーの地産地消の取り組みがスタートした。	➤ 豊富なエネルギー資源が利活用され、市民生活に潤いをもたらすまち	➤ 今年度設立された地域電力小売会社「（株）かづのパワー」の取組を加速させ、豊富なエネルギーを生かした鹿角ならではの取組を進める必要がある。 ➤ エネルギーは鹿角らしさを表す言葉の一つ。（第3回） ➤ 地域電力小売会社による電力の地産地消をもっと強化していければよい。（第4回）		➤ 26 次世代産業の創出に取り組みます

かづの未来会議テーマ別意見集約シート
 〔第 6 回会議までの意見を反映〕

戦略・方針	経営戦略 2「世界遺産のまち」をつくる	項目	文化振興、観光産業との連携、環境整備
-------	---------------------	----	--------------------

【凡例】
 青字＝委員意見、
 赤字＝キーワード、
 黒字＝市分析事項

STEP 1 鹿角市の現状・問題と課題 (ここ 10 年で鹿角市の良くなったところ●・そうでないところ▲)	STEP 2 目指すべき理想の姿となぜそう思うかの考え方		STEP 3 目指すべき理想の姿を実現するための取組	
	【理想の姿】	【考え方】	【キーワード】	【何をするか】(関係する取組方針)
文化振興 - 鹿角市の文化財をそのまま 10 年後、20 年後、30 年後にすべて持っていけるかと考えると難しい面もある。(第 1 回) ●本市には、ユネスコ無形文化遺産である「大日堂舞楽」と「花輪ばやし」、世界文化遺産への推薦が決定した「大湯環状列石(北海道・北東北の縄文遺跡群)」など、国内外から高い評価を受けている文化財がある。さらには、「毛馬内の盆踊」を含む「風流(ふりゅう)」が、2022 年ユネスコ無形文化遺産の登録を目指すために本格始動することとなり、実現することで 4 つの世界遺産を抱える国内屈指の都市となる。	文化財が子どもたちへと継承されていくまち	- 残す努力と取捨選択する目を養い、現実感のあるまちづくりも大切である。(第 1 回) - 世界遺産は鹿角らしさを表す言葉の一つ。(第 3 回) - 何世代にも渡って、暮らしの中で守り受け継がれてきた文化財の歴史的価値に対し、市民全員で向き合っていくことも重要である。	- 残す努力 - 取捨選択する目	27 文化財の保存に取り組みます 28 ヘリテージ・ツーリズムに取り組みます
産業との連携 ●世界遺産登録が相次いで実現している中、世界級遺産の活用を都市ブランド推進の中核に据え、「世界遺産のまち」であることのイメージ戦略や地域 DMO と連携した着地型旅行商品の開発が進んでいる。 - 世界遺産という響きはいいが、果たして期待どおりの結果を生むだけのポテンシャルがあるのか疑問がある。(第 3 回) - 他の戦略に掲げている文章表現よりも抽象的で、鹿角らしさの部分の取組に厚みを持たせ、具体化していく必要があるが、有形・無形を含めた世界遺産登録に向けた取組が進むと本市の特長を出すことができ、これを実現できるのは鹿角市だけであるという意気込みで進めたい。(第 3 回)	観光振興と文化振興が融合したまち	- 今ある文化や資源をどう活用するか、どのように発信するかが大切である。(第 2 回) - ユネスコ無形文化遺産を 2 つ有するという現状も誇らしいことなので、自信をもって発信したほうが良い。(第 4 回) - 鹿角市には素晴らしい自然があるので、自然景観を生かした攻めの取組が必要である。(第 5 回)	ユネスコ無形文化遺産	28 ヘリテージ・ツーリズムに取り組みます
環境整備 ▲世界遺産を豊富に抱えるまちでありながら、文化財周辺の景観を守るルールづくりがなされていない。	世界遺産が映える景観の美しいまち	「世界遺産のまち」を形成していくためには、核となる歴史的資産だけではなく、周囲の山並みや河川などを含めて景観形成を考えていかなければならない。		27 文化財の保存に取り組みます - 計画策定に向けた調査等(R2)に基づき、計画書の策定や景観条例の制定を行う。

かづの未来会議テーマ別意見集約シート〔第 6 回会議までの意見を反映〕

戦略・方針	経営戦略3 まちの経営力を高める	項目	市の財政状況、地域情報化、未来技術導入、地域コミュニティ、市全体の経営力、コンパクトシティ
-------	---------------------	----	---

【凡例】青字＝委員意見、赤字＝キーワード、黒字＝市分析事項

STEP 1 鹿角市の現状・問題と課題 (ここ 10 年で鹿角市の良くなったところ●・そうでないところ▲)	STEP 2 目指すべき理想の姿となぜそう思うかの考え方		STEP 3 目指すべき理想の姿を実現するための取組	
	【理想の姿】	【考え方】	【キーワード】	【何をするか】(関係する取組方針)
市の財政状況 ➤ 歳入決算額はおおむね 180 億円台で推移している。(資料集 P 38) ➤ 地方税は 30 億円台で推移しており、地域経済の低迷による法人税や入湯税、固定資産税の若干の減少はあるものの、ほぼ横ばいで推移している。(資料集 P 39) ➤ 歳出決算額は、H18 は 150 億円だったが、近年は 180 億円台で推移している。(資料集 P 42) ➤ ●将来負担比率は、財源の確保と抑制を徹底した予算編成に努めてきたことから、県内類似団体と比較すると相当低い。また、実質公債費比率も、地方債の償還額と発行額のバランス等を考慮してきたことから、同じく県内類似団体と比較しても低い。(資料集 P 36・37) ➤ ●財政構造の弾力性を示す経常収支比率は、扶助費や繰り出し金が年々増加傾向にあり、自由度が減ってきている。(資料集 P 46)	➤ 健全な財政運営と自主財源の確保により、市民活力へ財政投資できるまち	➤ 人口減少社会において、地域間競争に打ち勝つためには、健全な財政運営の維持とともに、積極的な歳入確保に努め、地域活性化の好循環を生む市民活力へ財政投資できる構造をつくっていく必要がある。 ➤ 限られた財源の中で平等なサービスを目指すには、取捨選択も必要である。(第 4 回)		➤ 29 効率的な行財政運営を進めます
地域情報化 ➤ ●本市のインターネット普及率は 77.9% (市民アンケート) となり、H30 情報通信白書による全国の 80.9%や秋田県 71.5%に比べても低いレベルから脱している。 ➤ ●民間ではフリーWi-Fi など ICT 利活用によるサービスが提供され、利便性が高くなっている。 ➤ ▲未来技術の進展は、中山間地域ではギャップがある。(第 3 回) ➤ ▲5 G については、人体への影響を不安視する声もある。(第 3 回) 人体への影響について正確には把握していないが、ICT の進歩により、スマートフォンアプリを利用した個々のニーズに応じた効率的なルート運行への活用や、農業分野での活用などにも広まっていくと考えられる。(第 3 回) ➤ ▲オンラインで手続きができる行政手続きの件数が現状ではとても少ない。かづの未来会議もリモートで開催すれば、参加者は増えるのではないか。若者向けに SNS を利用するのもよいのでは。(第 6 回)	➤ 未来技術の活用によって、市民の利便性が向上するまち ➤ 未来技術と鹿角の古き良さが調和したまち	➤ さまざまな民間サービスなども参考にしながら積極的に行政サービスにも ICT を導入し、市民の利便性向上と、行政サービス提供のコスト削減を図っていく必要がある。 ➤ 高齢者の一人暮らしの方が電気ポットを使うと遠方に住む家族に知らせが届く技術がある。こういった取組が人手不足の解消につながる。(第 3 回) ➤ 5 G は、他から遅れをとるから導入するのではなく、本市に合った生かし方を考える必要がある。温故知新が意味するように、鹿角に眠る古い大事なものにも目を向けて、新しいものと融合させながらアイデアを生み出してくことが大切である。(第 3 回) ➤ SNS の利用にあたっては、キャラクターを設定して発信させる手法もある。たんぽ小町ちゃんがツイッターでつぶやくだけで話題性はあるのではないか。(第 6 回) - 市で取り組んでいる事業が多いので、随時情報を発信していく必要がある。気軽に毎日発信できるツイッター等の SNS 利用が有効だと思う。(第 6 回) - 市民の声を気軽に届けるために、思いついたことを書きもめるインターネットの掲示板のようなものがあればよい。(第 6 回)	➤ 温故知新	➤ 30 未来技術の導入を進めます - 社会に役立つ新しい仕組みや価値を生み出し、まちの成長を支える技術の導入を目指す。一方で、地域の古い大事なものは、基本戦略で守っていく。 - オンラインサービスを受けるための環境整備をすることが行政の役割の一つ。オンライン手続きと従来の手法の両方を併用しながら、市民の利便性を高めていく。(第 6 回) - SNS は市でも一部取り組んでおり、リモート会議も今後の展開に向け環境整備を検討していく。(第 6 回) - 市民から日常的なご意見をいただけるよう、市ホームページからのメールフォームを整備している。鹿角の情報発信については、市民と一緒に盛り返していきたい。(第 6 回)
地域コミュニティ ➤ 少子高齢化の進展や防犯・防災など地域課題が増大・多様化しており、自治会など市民団体との「共動」による取組が地域づくりに欠かせない原動力を担っている。 ➤ ▲価値観の多様化に伴い、地域のつながりが希薄化したと言われており、コミュニティ活動への働く世代の参加が少なく自治会の機能低下や活動維持が難しくなっている。	➤ 協力し合えるまち	➤ 自分たちでできることは、自分たちでやる努力も必要。市は、補助金を出すだけでなく、環境づくり(仕組みづくり)について指導が必要である。(第 2 回) ➤ 子どもや高齢者の見守り、青少年の健全育成、良質な生活環境の確保等において地域コミュニティが良好に維持されることへの期待は増しており、「共動」の取組を手本に、できる時にできる範囲で協力し合える仕組みが必要である。	➤ 環境づくり(仕組みづくり) ➤ 協力し合える仕組み	➤ 31 多様な主体の力で共に発展するまちづくりを進めます

市全体の経営力 ➤ ●秋田県市町村経済計算をみると、製造業や観光業など外貨獲得産業においては、市内総生産が上がっており、経営力の強化が図られている。 ➤ ●市民一人当たりの市内総生産及び市民所得も増加傾向にあり、市全体での底上げが図られている。	➤ 市全体が持続可能な経営力をもつ	➤ 行政だけではなく、事業者、団体、自治会など、あらゆる組織が将来において持続可能な経営力を持ち、それぞれの役割分担のもとで鹿角市を活性化させていく必要がある。		➤ 31 多様な主体の力で共に発展するまちづくりを進めます
コンパクトシティ ➤ ●中心市街地の歩行者数や居住人口は減少しているが、これまで、公営住宅の建設や、年間 30 万人以上の利用が継続されている文化の杜交流館、歴史民俗資料館の整備のほか、中心市街地へのアクセス向上を図る駅前広場整備事業も進んでいる。	➤ コンパクトシティの形成が図られたまち ➤ 快適で魅力ある中心市街地が形成されるまち	➤ ハード面の整備は計画通り完了するため、<u>歩いて暮らせるまちづくり</u>や、滞留人口を生むソフト対策が重要である。 ➤ <u>自然以外のエンターテインメントが欲しいという人が多いなら、例えば花輪商店街を娯楽ストリートにして、空き地などを高校生が昼間に遊べるような場所にできればよい。</u>（第4回）	➤ <u>歩いて暮らせるまちづくり</u>	➤ 32 コンパクトなまちづくりを進めます • まちの核となる機能を維持するための「まち使い」を促していく。一方で、郊外での個々の暮らしも守り、尊重していく。 • <u>昨日を集約するのは必要だと思うが、住む場所はそれぞれ住みたいところにした方が田舎らしくてよい。住んでいる側からすると、今の暮らしを子どもや未来につなげたいという思いがあるので、置き去りにされている感じがする。</u>（第4回）